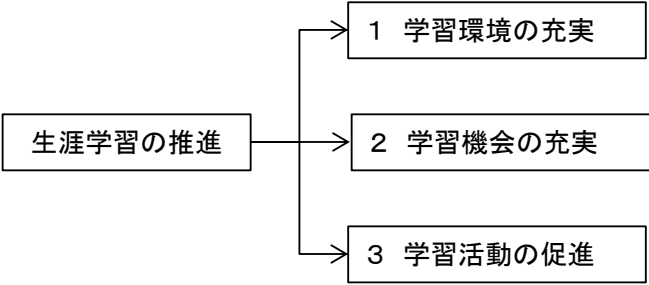


平成29年度大船渡市教育委員会の事務の執行状況等

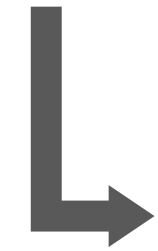
施策 1 生涯学習の推進



進捗度	状 況	成果指標	今後の方向性	
A	概ね計画どおり進捗している	当初見込み以上	○	現状維持
B	一部に進捗の遅れが見られる	当初見込みの7割前後	●	改革改善
C	全体的に進捗の遅れが明らかである	当初見込みの5割以下		

基本事業 1 学習環境の充実

事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	H28実績	H29実績	H32目標		
1-1-1 カメラホール運営 管理事業(指定管 理)	市民 カメラホール	安全・快適に学習活動が 行える。	施設利用状況の集計、使用料の 集計・納入、設備修繕等の維持管 理業務、指定管理者への業務委 託	①カメラホール利用者数 ②施設不具合件数 ③施設不具合対応率	①人 ②件 ③%	①27,861 ②8 ③100	①29,030 ②4 ③100	①28,000 ②5 ③100	A 概ね運営管理は適切であ り、施設設備の修繕につい ても計画的に実施している。 利用者数についても前年度 比4%増であり、目標値を上 回ることができた。	○ カメラホールは全市民 を対象とした施設であると ともに、盛地区公民館とし ての機能を併せもった施 設であることから、今後 においても、盛地区公民館 の利用と一般利用との調 整を図りながら管理運営 を進めていく必要がある。
1-1-2 三陸公民館施設管 理・運営事業(指定 管理)	市民 三陸公民館	安全・快適に学習活動が 行える。	〃	①三陸公民館利用者数 ②施設不具合件数 ③施設不具合対応率	①人 ②件 ③%	①12,086 ②0 ③-	①10,123 ②0 ③-	①10,000 ②0 ③-	A 利用者数については、前年 度比16%減少しているもの の、目標値を上回っており、 貸館業務だけながら、順調な 利用状況である。	● 市芸術文化協会が施設 内に事務局を置いて施 設を利用していることか ら、協会所属団体等の利 用促進を図る必要があ る。
1-1-3 博物館管理事業	市民 碁石海岸を訪れる観 光客 博物館施設・設備	快適な環境で気仙地域 の自然と文化を学ぶこと ができる。	施設・設備修繕(収蔵庫床修繕、 シアター・プロジェクターランプ交 換等)、特別開館・無料開放の実 施、市広報・市ホームページ等で 博物館情報を提供。	①施設設備の故障・不具合 発生件数 ②施設設備の故障・不具合 対応率	①件 ②%	①7 ②100	①9 ②100	①7 ②100	A 概ね適切に施設管理がなさ れている。 施設の老朽化による修繕・ 更新についても計画的に実 施している。	○ 施設・設備の長寿命化 を図るために、今後にお いても、必要な改修を計 画的に進めていく必要が ある。



基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H28実績	H29実績	H32目標	
1-1 学習環境の充実	市民 生涯学習施設	学習環境、活動の場が整っている。	①「生涯学習のための施設が 整備されている」と答えた市民 の割合(市民意識調査)	①%	①16.2	①21.2	①50.0	C 生涯学習施設への満足度については前年度比30% 上昇したものの、5割にも満たないため、学習環境の充 実に向けた検討が必要である。

基本事業 2 学習機会の充実

事務事業名	対象	意図	事業内容	成 果 指 標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				名 称	単位	H28実績	H29実績	H32目標		
1-2-1 生涯学習情報提供事業	市民	必要な生涯学習情報を入手する。	・生涯学習に関する情報(学習機会、学習グループ、実践者、社会教育施設等)を調査し、市民に周知。 ・生涯学習いきいきカレンダーの編集と市ホームページへの掲載。 ・生涯学習情報の市広報と市ホームページによる情報提供。	①生涯学習に関する情報が十分に提供されていると思う人の割合(市民意識調査)	①%	①21.1	①20.4	①45.0	B 生涯学習関連情報の提供が十分と感じる市民の割合が前年度よりも3%減少したが、何らかの生涯学習活動を行った人の割合が前年度比27%上昇したものの目標値には至っていない。	●ICT技術の進展等、社会情勢の変化に合わせた情報提供の手法、媒体の活用について、さらに検討する必要がある。
1-2-2 乳幼児学級事業	4歳以下のこどもを持つ親等	学習活動や参加者同士の情報交換を通じて、家庭での乳幼児教育を自信を持ってできるようにする。	講座の開設(6月から12月まで全12回、金曜開催)	①講座に参加して有意義だったと感じた保護者	①%	①94	①100	①100	A アンケート結果からも見て、受講者から大変好評を得ている事業である。	●託児ボランティアの不足が課題であり、事業を継続するためには、ボランティアの掘り起こしなどを行う必要がある。
1-2-3 市民講座事業	市民	・市民の学習要求を充足させる。 ・学習活動を通じて身につけた知識や経験を活かしてもらう。 ・生涯にわたって学習活動が続けることの大切さを知ってもらう。	名称を「成人大学講座」から「市民講座」に変更し、9月から3月に全6回(各館2回)実施。	①講座の受講数 ②講座の年間延べ受講人数 ③市民の講座への受講率	①人 ②人 ③%	①118 ②421 ③0.36	①－ ②238 ③－	①－ ②320 ③－	B 仕事をしている若年層・壮年層が受講しやすい開催日程の見直し等を行なっているものの、講座延べ受講者数が前年度を大きく下回った。	●多様なニーズの把握に努めるとともに、幅広い受講者の年齢層に配慮した講座運営についての検討が必要である。



基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H28実績	H29実績	H32目標	
1-2 学習機会の充実	市民	①学習情報が容易に入手できる ②多様な生涯学習機会に恵まれている	①「生涯学習に関する情報が十分に提供されている」と答えた市民の割合(市民意識調査) ②公民館講座延べ参加者数 ③博物館入館者数	①% ②人 ③人	①21.1 ②4,863 ③9,589	①20.4 ②4,643 ③7,691	①45.0 ②7,400 ③7,700	B 生涯学習関連情報が十分提供されていると答えた市民の割合が約2割であることから、インターネットやSNS、情報媒体等を積極的に活用しながら、更なる情報発信を行う必要がある。 公民館講座参加者数については、減少傾向にあることから、更なる市民ニーズの把握に努め、魅力ある講座となるよう内容や実施方法の見直しを図る必要である。 市民芸術祭については、観覧者数が減少しているから、関係機関・団体等の意見等を踏まえながら、出展者の新規確保や開催方法、PR活動など、総合的に見直す必要である。

基本事業 3 学習活動の促進

事務事業名	対象	意図	事業内容	成 果 指 標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				名 称	単位	H28実績	H29実績	H32目標		
1-3-1 生きがいセミナー事業	60歳以上の高齢者	学習活動を継続することで、より生きがいのある生活を送れるようになる。	市内11地区で、運営委員会を開催のうえ開設した(5月から12月までの毎月1回程度、1地区あたり6回程度)。	①延べ講座参加者数 ②学習に参加して有意義だったと感じた参加者の割合	①人 ②%	①2,349 ②83	①2,239 ②77	①2,400 ②80	A 各地区の運営委員を中心に良好に事業運営を行っている。	● 少子高齢化の進行や高齢者の長寿命化など社会を取り巻く環境が変化していることから、次代のニーズに即した学習内容を検討していく必要がある。 また、新たな参加者の確保にも繋がるような魅力的なメニューを提供できるよう、各地区や運営委員と更なる連携を図りながら取組を進めていく必要がある。
1-3-2 芸術文化活動支援事業	市民、芸術文化団体	市民の芸術文化を支援する。	市民芸術祭の開催	①芸術文化にふれる機会がある市民の割合(市民意識調査) ②日頃から継続して何か芸術・文化活動をしている市民の割合(市民意識調査) ③市民芸術祭参観者数	①% ②% ③人	①29.6 ②22.7 ③6,503	①32.4 ②23.3 ③5,824	①33.9 ②24.8 ③7,500	B 市民芸術祭への出品数が増えたものの、出演者数や参観者数が減少。	● 市芸術文化協会に加盟していない団体や個人への支援に努めるなど、芸術文化に親しむ環境づくりに創意工夫する必要がある。
1-3-3 芸術文化鑑賞事業	市内児童生徒	優れた芸術文化に触れる。	児童生徒芸術鑑賞事業の開催(中学生)	①鑑賞者数 ②芸術文化に触れる機会がある市民の割合(市民意識調査)	①人 ②%	①2,788 ②29.6	①840 ②32.4	①1,958 ②40.0	B 小学生無料招待事業が隔年開催のため鑑賞者数が前年度より減少したが、少子化により児童生徒数が減少しているものの、児童生徒へ優れた芸術文化に触れる機会を提供することができた。	● リアスホール自主事業と合同で開催することにより、経費の削減が図られることから、事業の統合について検討する余地がある。



基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H28実績	H29実績	H32目標	
1-3 学習活動の促進	市民 芸術文化団体	活動の成果を発表する	①市民芸術祭出品数 ②市民芸術祭出演者数	①点 ②人	①3,087 ②3,226	①2,782 ②3,009	①4,000 ②4,500	B 芸術文化活動の最大の発表機会である市民芸術祭については、出品数が平成28年度比10%減、出演者数は7%減となった。 減少した要因として、市民芸術祭に携わる関係者等の高齢化、参加団体等の後継者不足、市民芸術祭に対する若年層の関心の低さ、他行事との日程の重複等が考えられることから、新たな芸術文化団体の掘り起こしを行うとともに、出演者や出品数を増やすための幅広いPR活動を展開しながら、芸術文化に対するする意識の高揚を図る必要がある。 また、高校生など若年層が参加できるような魅力あるまつりの演出を図るとともに、各団体等と協力を図りながら芸術文化への関心と理解を図っていく必要がある。

□総括

施策名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H28実績	H29実績	H32目標	
1 生涯学習の推進	市民	主体的に学ぶことを通じて自己実現を図る	①「日頃、何らかの学習活動に取り組んでいる」と答えた市民の割合(市民意識調査)	①%	①32.4	①41.3	①45.0	B 主体的に学習に取り組む市民が4割程度おり、増加傾向にあるが、その一方で、「学びの成果を発揮する機会が得られている」と感じている人は2割程度であることから、学びの成果を地域で活かすことが重要であり、意見交換等を行ったり、一人ひとりの持つ有意義な経験等を地域で共有する仕組みを形成していくことが必要である。
			②「日頃、学習活動に取り組んだ成果を活かしている」と答えた市民の割合(市民意識調査)	②%	②12.5	②22.0	②45.0	

<課題>

- ・生涯学習関連情報伝達に係るより効果的な情報発信
- ・幅広い世代の関心を呼ぶニーズに沿った魅力的な学習プログラムの検討
- ・生涯学習とまちづくりの連動を実現する体制の整備・強化
- ・芸術文化の鑑賞の機会の提供と広く芸術文化に親しむことができる環境づくり